

令和 2 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取商業高等学校
校長 岩田 直樹

評 価 日	令和 3 年 2 月 1 日 (月)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの項目も概ね達成できている。 ・生徒が落ち着いており、問題行動や不登校も少なく授業にきちんと向かっている点を評価したい。 ・コロナ禍における例年と異なる家族限定での鳥商デパート開催に向けた生徒の創意工夫を評価したい。 ・特別支援教育の観点からの多様な生徒への対応が求められる中で、今後も必要な支援をお願いしたい。 ・コロナ禍で生徒の進路へのさまざまな不安がある中で、引き続き保護者への丁寧な情報発信をお願いしたい。 <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>3. 取組改善のための提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が人前で発信するような活躍の場を多く設定することで、もの怖じしない生徒を育ててほしい。 ・若者ならではの柔軟な思考や発想で商品開発などに今後も挑戦してほしい。 ・オンラインでの発信や会議など新しいツールを生徒が活用する場を今後も増やしてほしい。 ・業務改善の視点も考慮しながら、生徒の資格取得の支援を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での鳥商デパート開催と、従来通りの規模での開催のどちらにも対応できるように経験を継承していく。 ・コロナ禍で卒業生との接触が難しい状況にあるが、進路先での卒業生の姿について来校者から情報収集し、在校生や中学生への情報発信に活用していく。 ・中学校や外部機関と連携して必要な情報や支援を得ながら、さまざまな背景をもつ生徒への対応を継続する。 ・来年度も適切に運用していく。 ・生徒が発信する活動やその土台となる探究的な活動を重視した挑戦的な教育活動の具体について検討を進めていく。 ・教育への I C T のさらなる導入を念頭に、生徒の自発的な学習のための効果的な活用方法を研究する。 ・ I C T を活用した業務改善についてさらに検討を進める。 	